

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立鬼塚中学校						
1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力の向上については、単元計画の活用を進め、生徒が見通しをもった学習ができるように取り組みを進めることができた。また、一人一台タブレット端末の利用も昨年度と比較して活用する回数が増えた。しかし、まだ十分ではないので、今後も取り組みを推進する必要がある。また、家庭学習習慣の定着に課題があり、生徒の学びを推進取り組みが必要である。</p> <p>・今年度は、夢や目標をもたせる取り組みを増やすことができた。しかし、十分な成果が表れていないので、さらに取組を進めていき、学習に結びつけることが必要である。</p> <p>・生徒指導の課題やいじめ問題の対応に、各学年や部会、SCやSSWと連携し、「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。また、卒業式の生徒司会など、積極的に生徒の出番・役割・承認の場を設定することで、生徒の自己肯定感を高める取組を行い、発達支持的生徒指導を進めることができた。しかし、規範意識の低さが課題であり、ルールやきまりについて考える取組や、人間関係作りや人との接し方を学習などをさらに進めるとともに、様々な場面で出番・役割・承認の場面を設定と個別の指導・支援を丁寧に行っていくことが必要である。</p>						
2 学校教育目標	『信頼される人になる』						
3 本年度の重点目標	<p>① 知：子どもが「唐津の学びスタイル」の「期待感」「存在感」「効力感」「充実感」を感じながら学ぶ場面を増やし、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を進める。</p> <p>② 徳：開発的生徒指導（発達支持的生徒指導）を全職員で取り組むことで、子どもの豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させる。</p> <p>③ 体：健康教育・安全教育を行う。また、教育相談体制を充実させる。</p>						
4 重点取組内容・成果指標							
5 最終評価							
(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組	具体的な取組	最終評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践により、生徒が主体的に学習に取り組める授業を展開、ICTの利活用を行い、振り返りで、4つの感の特に、「充実感」を感じることを増やす。	・生徒アンケートで、「単元のゴールを意識して、一時間毎の授業に意欲的に取り組んでいる」の問い合わせに、肯定的な回答の生徒の割合80%以上。 ・生徒アンケートで、「目標をもって家庭学習に取り組んでいる」の問い合わせに、肯定的な回答の生徒の割合75%以上。	・生徒が目標をもって授業に取り組めるよう、単元のゴールを明確に示し、そのゴールに向けて1時間の授業のまとめや振り返りの充実を図り、自己の学習状況の把握を促す。 ・授業の振り返りや生徒の実態に応じた家庭学習の充実を通して、基礎・基本の定着を図る。	B	・学校評価アンケートにおいては、「学力向上に向けて、工夫した授業づくりに努めている」という評価が全校でも80%を超えており、特に2・3年生においては、昨年の結果よりも20%近く上昇している。さらに数値目標であった2項目においてもいずれも5%を超える肯定的な回答を得ていることからも授業における学力向上の取り組みは、十分になされていると思われる。 ・家庭学習において、しっかりととした目標意識をもって取り組めている生徒が33%であり、より進路意識を高めて授業と家庭学習とをつなぐ取り組みが必要であると思われる。	B	・学習での「たのしい」「わかった！」が多くなるような指導・支援をお願いしたい。 ・タブレット等活用授業の更なる知恵と工夫で、分かりやすい授業向上をお願いしたい。 ・学校・家庭・塾などでICT導入により学習のやり方も進化していく。一人ひとりが自分にあったやり方で進めていくと伸びるのではないかと考える。 ・家庭学習が、生徒の意識が高まるようにする必要があると考える。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価の保護者および生徒アンケート「感謝と思いやりの気持ちを育てる指導を行っている」の達成率をそれぞれ80%以上	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教育や特別活動を充実させ、仲間づくりを推進し、豊かな心を育む教育を推進する。	B	・人権問題に関する職員研修を行い、全学年同じ題材で事前学習に取り組み、「性の多様性」に関する講演会を行った。今後もさらに豊かな心を育む教育を推進していく。 ・人権作文、人権標語等に全校で取り組み、県で表彰されるなど人権意識を喚起することができた。	A	・心の健康は身体の健康でもあるので自分を大切にできるような環境を幼少期より育む必要がある。その基礎があつてからの人を思いやる心だと感じる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日常の生徒観察や教育相談アンケート(こころのとびら)を年10回実施する。生徒指導部会と教育相談部会で連携し、SCやSSW、SSF、外部機関などの連携強化を図る。	B	・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員は58%、おむねできていると回答した教員を合わせると100%であった。 ・生徒指導部会と教育相談部会、SCやSSW、SSF、外部機関などと連携し、いじめの早期発見、早期対応の強化を図ることができた。	B	・いじめ防止について関連組織との連携をさらに深めることはもちろん、生徒のSOSサインを見逃さないよう継続的意識の向上をお願いしたい。
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのかいとところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリア・ハスラーを活用し、将来への見通しをもたせるとともに、生徒の良さを積極的に認める場をつくり自己肯定感を高める。 ・学校教育活動の中で、生徒に役割・出番・承認の場を増やす。 ・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考える場をつくり、見通しをもたせる。	B	・「先生は、あなたのかいとところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ・将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90% ・授業研究会を3回実施し、教員の指導方法の改善に係る共通理解を図ることができた。 ・振り返りで肯定的な感想を残し、新たな活動への意欲を示す児童生徒が増加した。	A	・今15歳～17歳が自我を作る年なので、子どもたちには自分らしさや自分の強みを見つけてほしい。 ・職場体験学習などの取り組みを継続するとともに、子どもたちが目標を見つけて学習にとり組む環境づくりをお願いしたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○「安全に関する資質・能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○「交通安全や防災を意識して生活している」生徒80%以上	・毎日の給食時の放送で、食に関する様々なトピックスを紹介する。 ・保健だよりを発行する。 ・学期に1回、保健部の生徒たちで「給食だより」を発行させる。	B	・給食時の放送、保健だよりの発行は実施できているが、給食だよりの発行ができなかった。今後も授業等での取り組みを充実し、栄養バランスを考えた食事をし、丈夫な体づくりを心がける生徒の育成に努める。	B	・栄養と体や心についてなど、子どもたちに食育を学んでほしい。 ・栄養士や栄養教諭等を活用して、専門的な視点からの食育を進めてほしい。 ・運動に給食、便りまで十分な働きかけがあつてほしい。
●特別支援教育の充実	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○事務システムポータル及び校務システムの有効活用	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○校務システムを毎日2回チェックし、はなまる連絡帳を確認する職員100%	・定期退勤日の設定 ・学校閉鎖日の設定 ・部活動休養日の設定 ・校時の工夫・変更	B	・校時や掃除の回数、定期テスト時の採点の時間の確保など、時間の工夫を行い、働き方改革を進めた。また、タイムマネジメント意識の高い職員が79%となり、時間を意識する職員が増えた。32%の職員が月の時間外在校時間45時間を超えているのでデータの蓄積・共有と連携を推進していく。	B	・働き方改革推進として、タイムマネジメント意識向上を更に進めていただきたい。また、このことに対する保護者への理解を得る工夫をお願いしたい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組	具体的な取組	最終評価	学校関係者評価 意見や提言			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
○不登校対策	○教育相談運営体制の充実と不登校生徒への支援拡大	○昨年度より不登校生徒数を減少させることを目標とする。本項目は数値目標はそぐわない面もあるので、不登校対策委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探る。	B	・87.5%の職員が「不登校対策について、SC、SSW、SSF等外部機関との連携や、教育相談部会・ケース会議を行うなど組織的な対応ができた」と回答しており、オンライン授業の実施や相談室の環境整備を行い、また拡大ケース会議を実施するなど、不登校生徒や気になる生徒への支援を行なうことができた。	A	・学習のケアとともに心のケアを望みます。これからも生徒の情報を共有して対応してほしい。 ・不登校対策は個々の抱えている背景が様々で大変だと思いますが、継続的な寄り添う取り組みをお願いしたい。 ・不登校にも様々なパターンがあり、対応や援助の仕方が難しいと思いますが、これからも明るい将来や希望がある事をまだ分からない子どもたちに根気よく伝えたい。
○地域に開かれた学校づくり	○地域・保護者と連携した開かれた学校づくり	○学校評価アンケートで、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる75%以上を目指す。	・育友会をはじめ、地域と連携した活動を行う。 ・いきいき学ぶからつ子育成事業を活用し、地域人材等を活用した教育を推進する。	B	・87.5%の職員が「地域や保護者と連携し、教育講演会や育友会活動などに取り組むことができた」と回答しており、生徒会の地域ボランティア活動(駅の清掃)や、2年生の薬物乱用防止教室など、地域と連携して学校内では行えない学習を行うことができた。	B	・地域との交流や学校外での活動もされており、学生も良い経験になった事と思う。 ・学校・家庭・地域それぞれの教育力向上が重要。学校教育の原点を考える更なる工夫をお願いしたい。 ・保護者や地域の方が来校したときに、多くの職員が声をかけ、話しゃべく楽しそうな雰囲気づくりをお願いしたい。
●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	<p>・学力向上については、単元計画の活用を進め、生徒が見通しをもった学習ができるように取り組みを進めることができた。また、授業の終末で振り返りの活動の充実を図ったことで、授業で「わかった・できた」と生徒が感じ「充実感」が向上した。家庭学習の取り組みについては、意欲的に取り組む生徒が増加傾向にあるものの、依然として課題となっている。また、学力についてはどの学年も課題となっていたり、今後とも学力向上に向けて授業や家庭学習を充実させる取り組みが必要である。</p> <p>・今年度は、夢や目標をもたせる取り組みや地域連携取り組みを充実させることができた。また、様々な場面で出番・役割・承認の場などをつくり、多くの生徒の自己肯定感を高めることができた。加えて、個別の丁寧な指導・支援を行い生徒の進路への意識や周囲との人間関係を大事にする気持ちが強まり、学校全体が落ち着いた雰囲気になってきた。今後は、協働的な学びの充実や多様性を尊重する人権・同和教育を推進し、生徒の心の成長を促すことが必要である。</p> <p>・教育相談については、支援を必要とする生徒についてSCやSSWと連携し、「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。また、交通安全や避難訓練などを通し、生徒の安全に対する意識を高めることができた。しかし、交通事故や生活事故が発生しており、継続して安全に対する意識を高める意識を職員全体で認識し、教育活動を行っていくことが必要である。</p>						
5 総合評価・ 次年度への展望							